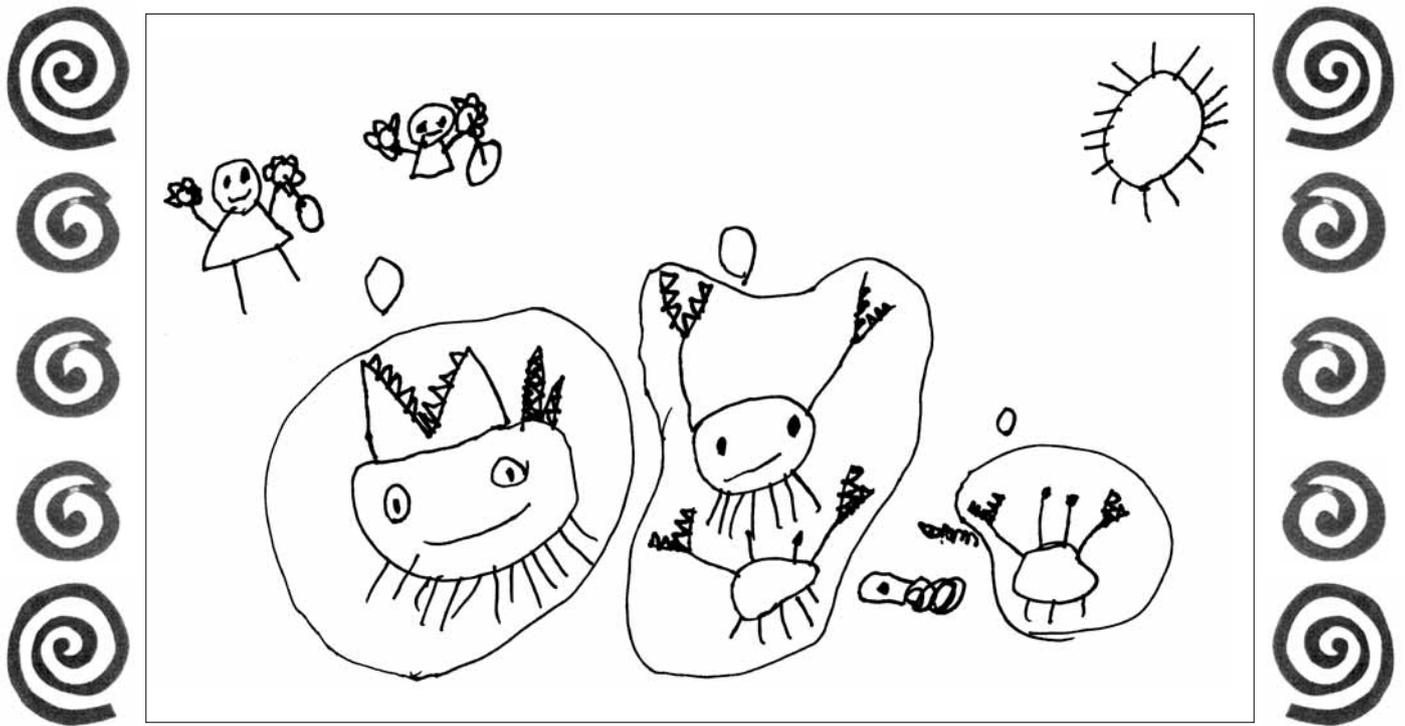




2011年3月に発生した東日本大震災と福島原子力発電所の事故から6年がたちましたが、思うように復興は進んでいません。また、2016年4月の熊本地震の被害を受けられたみなさまにも、1日も早い復興とご健康をお祈り申し上げます。私たちは心から応援しています。



「香椎保育所」さくら組の子どもたちの絵「わじろひがたのなかまたち」

ご案内

第20期 和白干潟の自然観察ガイド講習会 「牧ノ鼻にはどんな植物があるのだろうか！」

和白干潟には全国の干潟では2か所だけといわれる貴重な自然海岸が残っています。砂浜、アシ原、クロマツ林や雑木林、淡水湿地など干潟本来の自然の景観が残っています。今回は和白干潟の南側にある牧ノ鼻の植物について学びたいと思います。牧ノ鼻は博多湾に岬のように突き出しており、福岡市の緑地保全地区に指定され、照葉樹林帯が残っています。牧ノ鼻付近の植物について勉強しましょう。和白干潟の観察会で案内をする、ガイド育成の講習会です。初めての方もどうぞ!!

とき：6月4日(日) 受付12:30 開始13:00～17:00 長潮 満潮18:53 干潮12:41

集合：和白干潟を守る会事務所(福岡市東区和白1-14-37 海のきりえ館1階)

参加費：300円 雨天決行

持ち物：筆記具、ルーペ、飲み物、(あれば)双眼鏡

服装：長靴、帽子、長そで、長ズボン、雨具

主催：和白干潟を守る会

問い合わせ：TEL: 090-8412-2663(山之内)



2017年度 和白干潟を守る会 総会報告 (高田 将文)

主な役員と事務局組織

2月25日に、2017年度の総会が開催されました。参加者は19名。山本代表が「和白干潟を守る会は今年で29年目を迎えました。2016年度は11月に「日本湿地ネットワーク」の呼びかけで、環境省にラムサール条約登録への要望書を渡して要請を行いました。「第28回和白干潟まつり」は雨でも開催できました。初めて海の広場と集会所の2会場に分かれての開催になりました。和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となるように希望を持ってがんばりましょう！引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています！」と開会挨拶をおこないました。



事務局組織と内容は下図の通りです

会鳥 ミヤコドリ	観察会
代表 山本廣子	クリーン作戦 干潟まつり
事務局	HP編集・通信
事務局長 今村恵美子	調査、写真
事務局員 山之内芳晴	書記、会計
会計 田辺 スミ子	名簿・通信配布管理
有江 圭子	助成金、監査
	保全のつどい
	山川海流域連携
	資料点検



2017年度活動方針 私たちは、この方針で1年間取り組みます！

- 1 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」「クリーン作戦と自然観察」「和白干潟まつり」「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。
- 2 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。
- 3 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。
和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。



2016年度決算と2017年度予算

(単位：万円)

2016年度決算

当期収入は272万円で、主な収入は会費32万円、寄付金131万円、助成金等86万円と事業収入が21万円です。当期は企業や個人から多くの寄付金を頂きました。支出は230万円で、主な事業支出は通信・リーフレット発行、観察会、干潟まつりです。収支は42万円の黒字で、次年度への繰越は383万円となりました。

2017年度予算

当期収入は280万円を見込み、支出は271万円を計上しました。会費、寄付金など貴重な収入を大事に使っていきます。

	2016年度 決算	2017年度 予算
当期収入	272	280
当期支出	230	271
収支差額	42	9
前期繰越金	341	383
次期繰越金	383	392

和白干潟を守る会の活動を紹介します！ (山之内 芳晴)

守る会では様々な活動を行っています。皆様のご参加をお待ちしています。

干潟で自然の大切さを伝える活動（観察会や干潟まつり）

学校や様々な団体の依頼を受けて、和白干潟自然観察会を実施しています。昨年は20回行いました。また、和白小学校では年間計画の中で継続して「和白干潟の自然観察」を行い、2月にはまとめの発表会がありました。このほか、昨年11月には28回目の「和白干潟まつり」を開催し、雨にもかかわらず約350人の参加がありました。



和白干潟のクリーン作戦と自然観察

毎月第4土曜日の午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口までの範囲を中心に、企業や学生を含む一般の参加者と共に清掃し、清掃後には自然観察も実施します。昨年は定例のクリーン作戦のほかに臨時の清掃を加えると、年間18回行い、延べ621名が参加、1,679袋のゴミを回収しました。



和白干潟周辺の自然の調査

環境省、バードリサーチ、クリーンアップ全国事務局(JEAN)などの依頼を受けて、年間を通してシギ・チドリ調査、水鳥調査、ゴミ内容調査に参加しました。(鳥9回、漂着ゴミ1回)



和白干潟の水質調査と砂質調査の結果（毎月実施）

下の表は2016年10月から2017年3月までの水質調査と砂質調査結果です。水質調査についてはほぼ例年どおりでしたが、透視度は良くなっています。砂質調査については、昨秋はアオサの大量発生がなかったことで前年に比べると少し良くなっています。(表層酸化層が厚いほど砂質が良いこととなります)

水質調査結果 (2016年10月～2017年3月)

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リン酸イオン(PO ₄)	mg/l	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
化学的酸素要求量(COD)	mg/l	5	5	5	5	5	5
亜硝酸(NO ₂)	mg/l	0.01	0.01	0.01	0.01	0.005	0.005
透視度	cm	9.0	3.2	3.2	7.0	8.5	9.7

砂質調査結果 (2016年10月～2017年3月)

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1.0m地点 表層酸化層の厚さ	mm	6	7	8	15	14	3.9
還元層の黒色度	-	1.2	1.2	1.3	1.2	1.3	1.2
1.50m地点 表層酸化層の厚さ	mm	8	1.4	1.0	2.3	3.1	3.8
還元層の黒色度	-	1.3	1.2	1.2	1.2	1.3	1.2

山・川・海の流域会議

立花山や三日月山を源流として和白干潟にそそぐ唐原川、この集水域全体を保全する目的で2012年7月に発足。立花山から和白干潟までの6団体で構成されています。2ヶ月に1回定例会議を開き、2016年6月には唐原川お掃除し隊、10月に観察会「唐原川を歩こう」、今年の1月には九州大学大学院助教の林博徳氏を講師として「身近な川の生き物」についての学習会をしました。



和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます!!

- 1/25 「あいおいニッセイ同和損害保険(株)」 寄付金を頂きました。
- 3/17 「(公財)イオン環境財団」 助成金を頂きました。



テリハノイバラ

バラ科。海岸や河岸に生える小低木。ノイバラと比べると、ノイバラは茎は立っていますが、テリハノイバラは茎が地表を這い回ります。葉は表面に光沢があります。和白干潟の沿岸ではアシ原の中道、五丁川護岸、奈多海岸、雁ノ巣海岸などで見られます。アシ原の中道を歩く時に、足に引っかかってトゲだけがをすることがあります。花期は5～6月頃ですが、ノイバラの方が少し早いように思います。ノイバラの花の終わり頃にテリハノイバラが盛りになります。白くていい匂いです。



テリハノイバラの花

ヤマトオサガニ



ヤマトオサガニ

オサガニ科。甲幅40mm。甲は横長の長方形で、眼柄が長く、マッチ棒を立てたように見えます。和白干潟では唐原川河口や和白川河口、奈多のクリークなどの泥干潟に多数生息しています。斜めに巣穴を掘り、出口が2か所になって続いている穴もあります。雄は大きなロボットの様なはさみを振り、雌に求愛します。求愛のダンスはリズムに乗って大きく、上手です。唐原川河口は近年砂化が進み、ヤマトオサガニの生息域は少し上流域に押しやられています。

アオアシシギ

シギ科。全長32cm。旅鳥で、春と秋に和白干潟に立ち寄っていきます。くちばしは少し上に反り、足は長めで緑青色です。全体に白っぽくてスマートな感じがします。2～3羽の小群で浅い水辺を尾を振りながら小走りして、カニや小魚をとっています。私は干潟の貴公子と名づけましたが、走り回りながらプッ！とフンをしたりして、とても可愛いです。チョーチョーチョーと口笛のように鳴きます。少数ですが以前から変わらずに和白干潟に立ち寄っています。



アオアシシギ

★ 春の和白干潟のしぜん ★

アシ原：花：ハマダイコン、ハマエンドウ、ハマウド、ハマヒルガオなどが咲きます。

穂：ハマニンニク。新芽：アシ、ハママツナ、ホソバノハマアカザ、ホコガタアカザなど。鳥のさえずり：ウグイスが上手に鳴きます。

干潟：潮干狩りの最盛期です。干潟の生きもの：コメツキガニ、マメコブシガニ、オサガニ、ミズクラゲ、ウミニナ、ヤドカリ、アサリ、オキシジミなど。

アシ原付近：アシハラガニ、クロベンケイガニなど。

沿岸の泥地：ヤマトオサガニ。干潟の生き物たちが活発に動き出します。

水鳥：渡りのシギ・チドリ：オオソリハシシギ、ハウロクシギ、オバシギ、チュウシャクシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、メダイチドリなどが立ち寄ります。

夏鳥：コアシサシ、オオヨシキリなどが渡ってきます。

※クロツラヘラサギ、ミヤコドリは4月中旬頃まで見られます。



ハマヒルガオ

「ラムサール条約登録早期実現を求める請願書」を福岡市議会へ提出

3月21日、福岡市議会に会員9名で請願書を提出しました。請願書に添えた署名は5,134名分でした。2015年11月から2016年12月まで毎月2回の街頭署名活動に取り組み、多くの市民の方々の対話を重ね、また全国の自然保護団体などからもご協力いただきました。ご協力頂いた皆様有難うございました。

請願にあたっては、あらかじめ福岡市議会の会派（自民、公明、みらい福岡、市民クラブ、共産、緑とネット、維新、自民党新福岡）と無所属議員2名を回り、和白干潟のラムサール条約登録の必要性を示す資料を添えて、紹介議員になっていただくようお願いして回りました。その結果11名の議員が紹介議員を受けてくださいました。請願審査日程は未定ですが、福岡市民の宝としての和白干潟がラムサール条約に登録されるよう請願が採択されることを願っています。



山・川・海の流域会議 新春講演会で「多自然川づくり」を学ぶ

1月22日、山・川・海の流域会議主催の新春講演会で、九州大学大学院助教の林博徳氏に「福津市上西郷川の多自然川づくり」をお話いただきました。福岡市近郊の福津市では、元の川を自然の営みを生かした川に再生することに、大学・地域住民・行政が一体となり、十分話し合っ取り組み、成功した事例です。新興住宅地を開発している福津市では、安全で子どもたちも遊べる自然豊かな川に再生することができました。「自然再生は楽しく、普段から川とふれあうことで関心も高まり、川の危険や良さも理解するきっかけとなる」「合意形成には多様な主体の参加が重要」とアドバイスをいただきました。



第3回和白干潟の写真展開催

3月1日から21日まで、コミセンわじろにおいて、メンバーの撮った和白干潟の冬と春の野鳥の写真13点を紹介しました。別枠のミヤコドリとクロツラヘラサギが群れている写真も見ごたえがあります。地域交流センターとしてのコミセンわじろでは、いつも和白干潟を守る会のお知らせを掲示してもらっています。たくさんの方がカルチャーやスポーツ、会議などで利用されており、和白干潟の自然をより身近に感じてもらえたのではないのでしょうか。

四季の和白干潟の自然 (雁ノ巣海岸)

リーフレット編集中!

昨年「四季の和白干潟の自然 (海の広場周辺)」を発行しましたが、わかりやすいと観察会で好評です。今年は昨年1年間の雁ノ巣海岸での自然さがしをまとめ、リーフレット第2弾「四季の和白干潟の自然 (雁ノ巣海岸)」を発行予定で、編集に取り組んでいます。雁ノ巣海岸には砂嘴(さし)があり、海の広場周辺とは異なった植生が特徴です。



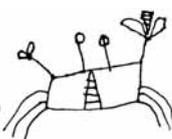
気が付いたらあなたも電話してください!

海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時

092-282-7146 (港湾空港局維持課)

沖のアオサをとってほしい時

092-282-7153 (港湾空港局環境対策課)



弱った野鳥を見つけた時

092-513-5611

福岡県筑紫保健福祉環境事務所(地域環境課)

092-643-3367

福岡県環境部自然環境課野生生物係

** お 願 い **

干潟でのゴルフやラジコンの練習はやめましょう!

とても危険です。

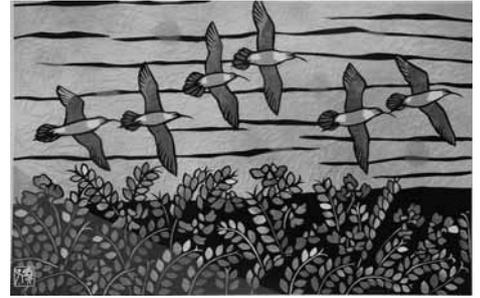
干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう!

(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)

犬のフンの始末は飼い主がしましょう!

●2016年12月

- 12/3 (土) 精華女子短大2年生の和白干潟観察会
和白干潟通信121号編集会議
- 12/4 (日) バードウォッチング in 和白干潟2016参加
2016年冬期シギ・チドリ調査1回目(今津)
- 12/8 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 12/10 (土) 九州産業大学経済学部特別講義「和白干潟を未来へ！」
(宗像ゼミ主催、講師:山本廣子)
- 12/11 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
イオン黄色いレシートキャンペーン
- 12/13 (火) 2016年冬期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
- 12/14 (水) 第28回和白干潟まつり第3回実行委員会
- 12/17 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 12/20 (火) 和白干潟のラムサール街頭署名活動(西鉄香椎駅周辺)
- 12/24 (土) 和白干潟通信121号編集会議



きりえ「春の海辺」

●2017年1月

- 1/8 (日) 2016年冬期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)
和白海域水鳥調査
- 1/9 (月) 2016年冬期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 1/11 (水) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 1/12 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 1/17 (火) 干潟通信121号発送会
- 1/22 (日) 山・川・海の流域会議新春講演会
「身近な川の生き物」参加
- 1/24 (火) 冬の和白干潟の自然さがし(雁ノ巣海岸)
- 1/25 (水) 和白小学校4年生の和白干潟観察会
- 1/28 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察

●2017年2月

- 2/5 (日) 2016年冬期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 2/8 (水) 2016年冬期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
- 2/9 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 2/11 (土) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 2/12 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 2/14 (火) 四季の和白干潟の自然Ⅱ(雁ノ巣海岸)リーフレット
編集会議
- 2/21 (火) 和白小学校4年生の和白干潟観察会まとめの発表会
- 2/25 (土) 総会・臨時定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察

ご案内

くすだひろこ きりえ展

・ 和白干潟の自然 ・

日時：5月1日(月)～5月31日(水)

11:00～15:00, 17:30～20:30

会場：レストラン「花もも」(日祝休み)

福岡市東区唐原3-7-6

TEL:092-673-0563

★ご高覧をお願いします★



きりえ「初秋の風」

干潟のつばやき「和白干潟のアサリを守ろう！」

春の和白干潟は潮干狩りのシーズンです。去年は猛暑のせい、アオサの代わりにアサミドリシオグサの大量発生がありました。アサミドリシオグサはアオサほどではありませんが、堆積すると干潟のアサリたちを死滅させます。しかし発生量がアオサの大量発生に比べると少なかったため、被害は少なかったようです。今年はアサリなどの資源の回復が見込まれますが、アサリが採れるようになると業者の乱獲が心配されます。なんとか和白干潟のアサリたちを守って行きたいですね。博多湾のももち海浜公園や室見川河口域では、アサリ資源を守るため「じょれん」を使うことが禁止されています。漁業権が設定されていない和白干潟だからこそ「じょれんは禁止」、「バケツ以上の容器は持ち込まない」などのルールが必要ですね。(山之内)



潮干狩り

※じょれん(鋤簾):アサリなどの貝類を採取する際に使う大型の道具。労せずして大量の漁獲を得られるため、条例等で禁止漁具とされている場合がある。

観察会報告（2017年1月～2017年2月）（今村 恵美子）

1/24（火）冬の和白干潟の自然さがし(雁ノ巣海岸)



低温注意報は出ているものの晴れていました。自然さがし（雁ノ巣海岸）の最終回に10名が参加しました。干潟に入ったらハマシギ170羽、ミコビシギ60羽、シロチドリ24羽が見られました。スズガモ、イソシギ、ハジロコチドリ、ミヤコドリ、オオバンやカルガモ、ヒドリガモも見られました。アシ原ではハマニンニク、ハマウドの新芽。岩をめくるとケフサイソガニが縮こまっていた。ハマゴウも枯れていましたが、実はペパーミントのような香りでした。枯れているカワラヨモギの中に綺麗な緑色の新芽がありました。砂洲の先端には白い貝殻が一面に広がり、いろいろな方向に波の跡がついていました。ゴミを拾いながら帰り、13袋になりました。最後に観察したものを確認し、採集したサンプルを見て感想を述べ合いました。冬の自然探しに参加してたくさんのお出会いがあり、気持ちの良い半日を過ごすことができました。（有江）

1/25（水）和白小学校4年生102名と先生4名の観察会

晴れて暖かな観察会日和。和白小学校の年間2回のうちの冬の観察会でした。インフルエンザが流行っていましたが、みんな元気にやってきました。野鳥観察ではオナガガモ、ミサゴ、ハマシギ、シロチドリ、ツクシガモなどを観ることができました。すぐ目の前の干潟をチドリやシギが走り回る可愛い姿、ミサゴのかっこよさが人気でした。センドンの葉痕は、お猿の顔に見えると言われていますが、ミッキーマウスの顔に見える、と言う子もいました。干潟でフレリトゲアメフラシや、寒さで砂に潜ったウミナヤゴカイを見つけました。ゴミを拾いながら広場まで帰り、ゴミは13袋にもなりました。最後に「和白干潟はいいところだけどゴミが多いので、みんなでゴミを出さないようにしなければいけないと思った」との感想も出て、干潟を守ることの大切さを感じてくれたようです。（今村）



2/21（火）和白小学校の観察会まとめの発表会と授業



7月と1月の観察会を踏まえてのまとめの発表会と授業のため、和白小学校に行きました。子ども達は6人ずつのグループで 和白干潟のこと、和白干潟のすばらしさ（夏）、和白干潟のすばらしさ（冬）、和白干潟の問題、 私たちにできること、 私たちの願い という6つのテーマに分かれて発表しました。守る会のメンバー8名は2階と3階の教室の二手に分かれました。ペープサートの鳥や植物のクイズや、「和白干潟の問題」のグループは問題点のポイントをしっかり押さえた紙芝居を作っていました。また「私たちにできること」では劇でリュックを背負い、双眼鏡を持った子が干潟でゴミを捨てたことを反省し、後でゴミを拾うというストーリーでした。「私たちのねがい」のグループは合奏曲の「茶色の小瓶」で和白干潟の替え歌を作っていて、発表を聞いた子も一緒に歌いました。別の教室では、「ビリーブ」の替え歌もあったそうです。

約1時間の発表の後、音楽室に移動して、山本代表のまとめの授業を聞きました。パワーポイントで和白干潟の四季の自然、守る会の活動についての話がありました。子どもたちが参加した観察会の写真も見ました。子どもたちは熱心に山本代表の話聞いていました。最後は守る会の「ミヤコドリ」の歌で授業を締めくくりました。私は初めて和白小学校に行きましたが、1年間を通して観察会を行い、まとめの発表と授業を行うことのすばらしさを実感しました。子どもたちの心の中に和白干潟がしっかり根付いていると思います。発表会の様子を西日本新聞東支局の記者が取材して、翌日の朝刊に記事が掲載されました。（有江）

守る会問い合わせ窓口

ホームページ：<http://wajirohigata.sakura.ne.jp>

入会/観察会(申込等)	山之内 芳晴	Tel 090-8412-2663
クリーン作戦	田辺 スミ子	Tel 090-1346-0460
広報/調査/定例会議	山本 廣子	Tel/Fax.092-606-0012
干潟まつり	今村 恵美子	Tel/Fax.092-942-5282



お知らせコーナー

和白干潟のクリーン作戦と自然観察のおさそい

4月22日(土) 15時~17時

「干潟・湿地を守る日2017」参加企画

「全国春のビーチクリーンアップ2017」参加企画

5月21日(日) (受付:9時) 9時半~11時半

「ラブアースクリーンアップ」参加

集合: 和白干潟 海の広場(東区和白4丁目海岸) 小雨決行

問合せ: Tel 090-1346-0460 (田辺)



定例スケジュール

定例会議(4/22, 5/27, 6/24)

毎月第4土曜日 10時半~13時 守る会事務所にて開催。

以下は参加自由です! 仲間が待っています!

クリーン作戦と自然観察(4/22, 5/27, 6/24)

毎月第4土曜日 15時~17時 和白干潟・海の広場集合

長靴があると便利。駐車場なし。

和白海岸探鳥会(5/14, 6/11, 7/9)

主催: 日本野鳥の会 福岡支部

毎月第2日曜日 9時~12時 JR和白駅前の和白公園集合

参加費: 一般300円 野鳥の会会員100円



会員募集中!

年会費 個人 2,000円
団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い

和白干潟を守る会のボランティア活動に参加して、新たな自分を見つけませんか? あなたの経験や知識や技術が、きっと活かされますよ!

和白干潟の鳥たち(その78)

ハマシギ (チドリ目 シギ科 / Dunlin) 浜鷗 [全長21cm]

ハマシギは冬鳥として和白干潟に訪れています。ふつうは群れで行動しています。ミユビシギやシロチドリと混群を作り、干潮時の干潟に降りて忙しく干潟をつつき、貝類やゴカイなどを食べています。群れで干潟上を飛び回りますが、方向転換時に一斉にキラリと白く光って、美しい干潟の風物詩になっています。



(写真撮影: 三宅 僚)

1990年代には1500羽程のハマシギが越冬していましたが、2000年代からは300~500羽に減っています。しかし昨秋はアオサの発生が少なく干潟の傷みが少なかったせいか、今冬のハマシギなどの小型シギ・チドリ類の渡来数が多くなり、ハマシギは800羽ほどに回復しています。満潮時には護岸などで休んでいるのが姿が見られませんが、干潮時には夜でも「ジューウ、ジューウ」と鳴きながら干潟をつついて観察できます。(山本 廣子)

【編集】高田 将文・山本 廣子・山之内 芳晴・田辺 スミ子・今村 恵美子

《カット》「香椎保育所」の子どもたち・くすだひろこ

次号は2017年7月に発行予定

【編集後記】春は和白干潟の植物たちの芽吹きが見られ、楽しませてくれます。去年は雁ノ巣の自然さがして

ナルトサワギクという有毒な外来植物を見つけました。近くの人工島にたくさん繁茂していることに気づきました。外国船の出入りと共にセアカゴケグモも周辺でたくさん見つかっています。私たちにできることは、常に観察を続けてよりよい自然を保ち続ける努力を怠らないことです。子供たち、若い方々にも頑張っていたきたいですね。(今村)

